

## 2018年度 学校自己評価表

Osaka YMCA International School

2018年12月

### I 学校教育目標

<p>1、本校は、英語を教育言語とする国際教育の必要性を有する生徒たちに、家庭と連携して適切な教育を提供するものである。</p> <p>2、本校は、グローバルな視野を育むための包括的な教育課程を提供する。</p> <p style="padding-left: 20px;">また、生徒たちが、教育活動において意欲的であることと、自らの学びと行動に対して責任意識を持つことを目標とする。</p>
---

### II 重点目標

<p>1、中学部のカリキュラム・教育活動を更に充実させ、IB ディプロマプログラム (DP) を持つ高校課程の構築に目途を立てる。また、幼稚部・小学部のIB・PYPカリキュラムの実施状況を精査・改善する。</p> <p>2、生徒支援一般、また特別な生徒対応を充実させる。</p> <p>3、IB校として、より望ましい教育効果を上げるための教育環境・施設・機器／設備の充実を進める。</p> <p>4、保護者とのコミュニケーションを密にしながら支持・支援をつなぐことと、広汎かつ効果的な学校広報の確立をはかる。</p>
--

### III 個別目標と評価

※ 評価基準 1 = 不十分 2 = 部分達成 3 = 達成

領域	評価項目	評価	達成状況	今後の改善
カリキュラム ・学習指導	・ 中学部教育活動の充実と 高校課程 (IB・DP) の導入。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年8月にIB・DP校としての高校課程を設置することを決定し、今年10月に正式に候補校と認定される。</li> <li>・ 2021年8月を目途に中学部をIB・MYP校とするべく専従の教員のリードでカリキュラムの再編を進めている。</li> <li>・ Kyoto International School, Marist Brothers International School など他校とのスポーツ交流実施。</li> <li>・ 栃木からAsian Rural Institute (アジア学院) の講師を招き、環境・グローバル連携などを学ぶ機会を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部から10年生以降、DP (高校課程) に繋がるより魅力的な学校作りのため、DP, およびMYPの導入を成功させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部指導体制の充実</li> <li>・小学部指導体制の充実</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学・中学部のカリキュラム内容・評価の充実</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部において主任教員・主任補助教員中心とした指揮系統が確立し上手く機能している。</li> <li>・幼稚部、小学部、中学部に独立して配置してある主任教員を配置することで、各部でより適切な教授内容を持ち、また生徒対抗が手厚くなっている。</li> <li>・今年度から招へいした幼稚部、小学部低学年専従の音楽・体育教員が機能し、小学部高学年・中学部の教育内容もより適切なものとなった。</li> <li>・MAP(=Measures of Academic Progress)による生徒の学力評価が適切にできるようになった。中学部で昨年度導入した ManageBac が機能し、カリキュラム・プランニングからテスト・評価までを IB・MYP に移行するために適切な方式で出来ている。</li> <li>・日本語・国語科で、専任のカリキュラムコーディネータを配置することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YMCA 内の幼児英語教育事業との連携</li> <li>・教員研修の更なる充実。</li> <li>・幼・小・中（・高）とよりスムーズに繋がるカリキュラムの策定。</li> </ul>
生徒・学習支援	・生徒支援の充実	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より、スクールソーシャルワーカーとして特別支援教育の資格を有する専従の常勤教員を配置、また非常勤カウンセラーを配置して、生徒支援・指導の充実を図る。</li> </ul>	・教員、カウンセラー、生徒支援教員、管理職の連携
	・家庭学習支援	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ作成ソフトの SeeSaw に続き、School Information System (校務システム) の Alma を導入。教務、学務、保護者とのコミュニケーション効率化が図れた。</li> </ul>	・多忙な保護者の Alma の活用頻度を上げること
学校生活 ・生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IB learner profile (目指すべき学習者像) の浸透</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・学校行事・家庭生活のあらゆる側面で learner profile を意識させることを通して生徒の自覚と自律を促すことができている。</li> <li>・キーボード、パフォーマンスクラブなどの新クラブが導入できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YMCA の理念と IB の Learner Profile を融合し、それらを踏まえた学習ができるように弛まず改善に努める。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Behavior Policy を再考</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Behavior Policy が明確になり、生徒指導のフローや保護者対応などのマニュアルを策定出来た。</li> </ul>	家庭、児相などとの連携
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の立候補による生徒会が機能し、毎週の生徒集会での発言、クリスマス・グラム、YMCAチャリティーラン・YMCAクリスマス募金活動などで活躍できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会の自律的継続と学校の適切な支援。</li> </ul>
P T A ・ 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の教育活動参加</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校行事での P T A の協力と保護者の活躍などより負担感のない名たちでの保護者の学校活動への貢献が策定過程である。</li> <li>・ 社会見学での引率補助、寄付金集め、学校行事改善提案などで良い連携ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更なる情報提供と呼びかけにより、より多くの保護者に学校活動に参加していただくこと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者への情報提供</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学保護者を対象とした年3回の「参加型カリキュラム説明会」実施。10月4日には、英語 DP のある高校課程へと続く学校の将来像を共有できた。</li> <li>・ 各クラス年3回の校長懇話会、学校ニュースレター発行。</li> <li>・ 学校ウェブサイト+Facebook への情報（各クラス+全校）提供。</li> <li>・ 生徒個別オンラインポートフォリオとして、SeeSaw を活用。</li> </ul> <p>。最新校務システムである Alma の新規導入</p>	Alma の活用
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域コミュニティーや公立学校との連携を深める</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の小学校に外国人英語教員を派遣</li> <li>・ 一般に施設を開放してYMCA のサッカー・バスケットプログラムを提供できている。</li> <li>・ サタデースクール、インテンシブなどの英語プログラムの提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連合会など他機関との交流を進める。</li> <li>・ 学校開排行事を増やすこと。</li> </ul>

教育環境・施設	・設備・備品改善	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全面ホワイトボード導入、IB 授業用の家具の購入など中学部教室環境の改善</li> <li>・ラップトップを活用することでPCルームを普通教室に改編し中学部のスペースを拡充。</li> <li>・一部教室カーテンを不透光のものに改善</li> <li>・校内全エアコンのオーバーホール</li> <li>・ブロック塀の危険個所の改修終了（大阪市との連携で実施）。</li> </ul>	・大阪市、全YMCAと連携し、安全でより教育活動をサポートできる施設・設備・備品の確保に努める。
	・IT機器・アプリケーションの充実・活用	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者データベース、学籍管理、出席管理、成績表、保護者コミュニケーション、また入学希望者対応に活用できる校務ソフト Alma の活用。</li> <li>・簡易パソコン Chromebook、iPad を更に購入し、5年生以上で1人1台、他学年も IT 室以外に通常教室で複数のラップトップ設置が進む。</li> </ul>	・生徒の IT リテラシーの充実に留意し、濫用することがないように指導する。
広報活動	・学校ホームページの改善	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科用の英語の学校サイトを全面改訂し、最新のウェブテクノロジーを用いてビジュアル・使い勝手・SEOの改善を見た。</li> <li>・また、フェイスブックで適宜情報発信できている。</li> </ul>	・学校サイト、Facebook、Instagram の更新頻度を上げる。
	・学外活動でのアピール	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田スカイビルでクリスマス街頭募金活動に全学で参加。</li> <li>・鶴見緑地で開催された大阪YMCAチャリティーランに3チーム参加でき、しっかりと寄付金活動ができた。</li> </ul>	・学外・海外での活動、YMCAの他部門との連携の機会を更に増やすこと。
	・国際機関・国際学校連盟などでの広報	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACCJ（アメリカ商工会議所）イベント参加・機関誌広報掲載。</li> <li>・EARCOSやWASC、IB、JCIS、JASOとの連携や会議・研修参加を通じた広報ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携機関を更に増やしていくこと。</li> <li>・ファンドレイズ活動を更に活発にし、学校の認知の浸透に役立て</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"><li>・国内外のYMC Aネットワークに連動した広報やアジア各国のYMC Aと交流が持てた。</li><li>・全世界配布の「帰国便利帳」で帰国生の広報掲載。</li><li>・ファンドレイズ活動を通じた広報。</li></ul>	る。
--	--	--	----